

# 紙と電子の本の動向を知る

## 東京国際ブックフェア

第17回東京国際ブックフェアが7月8日から11日まで、有明の東京ビッグサイトで開かれた。主催は同フェア実行委員会とリードエグジビションジャパン(株)で、来場者は7万6300人。印刷・製本会社からはオンデマンド製品やサービスの提案が目立った。また、9日から10日までは電子書籍や電子出版を紹介するデジタルパブリッシングフェアも併催された。

### 少数生産に対応

欧文印刷はブログの製本サービス MyBooks.jp とフォトブック作成サービス photo+ を紹介した。サービス開始当初は1冊のみの注文を見込んでいたが、現在ブログの本は複数冊の注文が多く、自作の冊子を周囲に配ることが増えている。また、これまでの子育て、料理、ペットに加え鉄道愛好家の利用も増えつつあるという。ダンクセキと石川特殊特急製本は手軽な編集ソフトを活用したフォトブック制作サービスを提案した。デジタル写真データの活用は今後急成長が見込まれると判断し、旅行やイベントの記念となる写真集を自作する楽しさを紹介した。

PURの製本技術にも注目が集まり、大日本スクリーン製造では、同社のインクジェット出力機



大日本スクリーン製造のインクジェット出力機で出力した書籍見本に注目する来場者

Truepress JetSX で出力し、加藤製本で PUR 製本した大型絵本や一般小説を展示した。出版社をはじめ絵本編集者に、色の発色や文字の再現などが好評だった。また、本村製本はアジロ綴じにコールドグルーという糊を塗ったあと PUR 糊を塗布することで堅牢さと開きの良さを両立した製本を紹介したとともに、本の表紙および1ページ1ページをラミネート加工して耐水性を付与した「ラミネート本」も出展した。日本紙興は1折り84ページ、全体で1000ページを越す無線綴じ製本で PUR の強度と開きの良さをアピールした。

大村製本グループのプランは線画分離スキャナシステム OMATA SCANNER を独自開発し、出品した。これまでのスキャナでは画像読み込み後、墨ベタや墨文字も網点分解され細部の再現が難しかったが、同社のデ・スクリーニングサービスでは175線のオフセット印刷物を350dpiの画像と1200dpiの文字データで再現できるようになった。これにより、製版フィルムを連続階調データに変換し、再利用して欲しいとしている。また同社は、パソコン教室の運営などを行うシーピーエスと共同で、パソコン教室での本の制作を提案した。フォトブックをはじめ、カレンダーやレシピなどの制作方法をパソコン教室で一般消費者へ教



プランの線画分離スキャナシステム OMATA SCANNER

え、プランがオンデマンドで印刷や製本を行うサービスで、独自開発のプリンタやインキ、用紙を使い1冊1500円からというコストで作成する。両社は教育を核に新しい流通の仕組みを作りたいとしており、現在全国で150の教室が同サービスを利用しているという。

## 電子出版とクロスメディア

印刷企業最大手の2社をはじめ、電子出版および電子書籍のコンテンツ作成支援の提案が積極的に行われ、来場者の関心も高かった。

大日本印刷は同社の電子書籍販売 Web サイトと子会社の CHI グループが運営するオンライン書店 bk1 との統合や実店舗とも連携をしたオンライン書店を今春に開設することを紹介した。電子書籍のコンテンツは開始時点で約10万点になる。また、グループ会社のモバイルブック・ジェーピーを通じて、そのほかの電子書店にも流通させる。

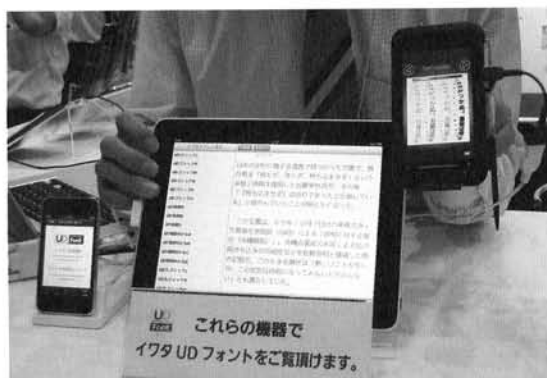
凸版印刷は電子出版における出版社の収益構造の確立を目標に、端末ごとに適した表現や他メディアとの連動、マーケティング提案、ビットウェイなどのデジタル書店との連携した配信プラットフォームを一括でサポートする「出版イノベーション2010」を提案した。また iPad での電子雑誌のサンプルを展示した。

日経印刷では自動組版の技術を基本に元データ

を紙や PC、iPad で表示するデータ変換サービスを紹介した。再版での利益が見込みにくい学術書のほか、図解説明が中心となる医学出版、細部の形状により多彩な種類がある医薬品カタログなどでの電子化の優位性を説明した。

モリサワは、iPhone アプリケーション用の電子書籍作成ソフト MCBook を紹介した。同社の自動組版ソフト MC-B<sup>2</sup> や Adobe InDesign で作られた組版データを変換し、iPhone 用アプリケーションを生成する。また同社のフォント9書体が組み込まれており、アプリケーション作成時に3書体を選び埋め込むことができる。今後は iPad や、米国のグーグルが携帯電話メーカーやソフトウェア開発者に無償提供するプラットフォームを使用した Android 携帯にも対応する予定。イワタは iPhone などの電子端末用の UD フォントを紹介。もともとは印刷用途で作られたフォントだが電子書籍への対応の要望が多かったため、かな部分の改良を経てディスプレイでの視認性を高めた電子書籍対応フォントとして発売する。

コダックは印刷物と電子書籍の製作工程を一元化する電子書籍データ自動作成ソリューション Kodak Multi Media One Pass Solution を参考出品した。同社が提供している Web 校正や印刷生産システムに電子書籍データの生成のフローを組み込むことで、データを幅広く活用することができる。パイオニアメディアクリエイツは紙や



イワタの電子書籍対応 UD フォントを表示した電子端末



光和コンピュータの透明シートを利用したデジタルサイネージ